



まごころ便り

令和8年6月12日
荒川区立第七中学校
学校だより 6月号
校長 佐藤 正敏

第80回運動会を終えて

運動会を終えて

保健体育科主任 藤澤 文也

5月30日（土）の運動会お疲れ様でした。晴天に恵まれる中、生徒の皆さんが最後まで一生懸命に頑張る姿は、観ている多くの人たちに感動を与えてくれました。まさに、我が校の校訓である「まごころ」を胸に秘め、そして、仲間と互いに協力し固い絆で団結した姿勢を見せてくれました。この運動会で得た達成感とクラスでやり遂げた経験をこれからの学校生活に活かしてくれることを期待しています。

それぞれの役割を

校長 佐藤 正敏

中学生の頃の私は、「学校生活の毎日が運動会だったらいいな」と考えていた生徒でした。

運動会が好きな気持ちは今でも変わりませんが、保健体育科の教員として、運動会の企画、練習指導、そして本番を迎える立場となった時、大きなプレッシャーを感じる日々を過ごしました。

また、本校でも3～4月の頃から、保健体育科をはじめ、多くの教職員が頭を悩ませ、最高の運動会を創ることを考えておりました。しかし、プレッシャーを感じ、それぞれの役割に向き合っていたのは、教職員だけでなく、生徒も同様だったと思います。

現在のスポーツや競技との関わり方は、「する」だけではなく、「みる」「ささえる」ことも大切な要素です。生徒の皆さんは、選手として競技に全力を尽くすだけではなく、係活動の責任を果たし、応援旗のデザインを一生懸命考えて作成したり、力強く応援したりと、一人ひとりが自分の役割を果たしてくれました。様々な関わり方で運動会を支える姿はとても輝いていました。

また、当日は多くの保護者の皆様、来賓の皆様にもご来校いただきました。入場行進の際、皆様から温かい手拍子をいただいた時は、大きな喜びとともに、感謝の気持ちでいっぱいになりました。皆様の応援が、生徒や教職員にとって何よりの励みとなりました。心より御礼申し上げます。

さて、先日の全校朝礼で、運動会の経験をこれからの学校生活に活かすためのアプローチとして、次の2点を紹介しました。

○運動会でどんな役割を果たし、前と後でどのように成長できたかを整理する。

○運動会の思い出を一旦心に留め、新たな目標に向けて精いっぱい努力する。

実際に学校生活にどう活かしていくかについては、生徒一人ひとりが自分自身で考え、答えを見つけてくれることを期待しております。



生徒全員で取り組んだソーラン節

保健体育科ソーラン節担当 青木 絢美

今年度もソーラン節を担当し、4月末から各学年の代表者であるソーランリーダーと準備を進めてきました。運動会本番の直前まで、ソーランリーダーとともに修正や確認を何度も繰り返しました。ようやく、最後の全校練習で、生徒が心を一つにして力強く演技する姿が完成し、本番を迎えることができました。完成までは長い道のりでしたが、常に、全校生徒の前に立ち、リーダーとして、役割を果たしてくれたソーランリーダーの生徒たちに感謝するとともに、生徒たちが協力して、一つの演技を創り上げることができたこと、とても嬉しく思います。



「社会を明るくする運動」 尾久地区推進委員会 街頭パレード

6月7日(日) 涼しい気温の中、街頭パレードが行われました。例年の吹奏楽部の参加とともに、今年は、第七中学校が横断幕、プラカードの担当となり、4つ梯団の先頭をリードしました。



＜プラカード・横断幕ボランティア生徒＞

2年生・・・青谷悠輝、小尾駿斗、佐藤有志、渡邊 司

3年生・・・齊藤大輝、高野龍也、平岩幌太、和田寛生、千崎優星、高橋琉惺、古川俊輔

●表彰●

- ・バスケットボール部女子春季区民大会 第3位 第七中学校
- ・バスケットボール優秀選手賞 三浦 和紗
- ・荒川区剣道連盟春季剣道大会 優勝 名和 剣

＜2026年5月18日(月) 6月2日(月)校内表彰者掲載＞

※その他にも受賞生徒はたくさんいます。代表として朝礼で表彰した生徒、部活動のみを記載しています。